

アサリ資源の維持と品質向上を図る漁場間移植の提案

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－栽培漁業－アサリ

担当者 佐藤利幸・山田学・松本陽・守岡良晃

I 新技術の解説

1 要旨

松川浦のアサリは、身入りの悪さ及び成長の遅れにより資源利用に支障をきたしている。

今回の調査により、アサリは高密度分布を一つの要因として 2013 年級は減耗傾向にあり、身入りが悪いこと、また、2017 年級は成長が遅れていることを明らかにした。

これまでの調査で、分布密度が低く、生息条件の良い漁場へ移植すると、身入りと成長の向上が確認されていることから、移植によりアサリ資源の大幅な減耗を防ぎ、品質向上と成長促進が可能であることを示した。

- (1) 2013 年級のアサリ資源量は、2017 年に 943 トンと推定されたが、2019 年には 520 トンに減少し、ほとんどが利用されないまま死亡したとみられた (表 1)。
- (2) 2017 年の主要漁場におけるアサリの分布密度は、殆どの漁場で 2010 年 (震災前) に比べ、極めて高いことが明らかとなった。しかし、漁獲サイズのアサリの肥満度は、2010 年 (震災前) より値が低かった (表 2)。
- (3) 2017 年級のアサリ殻長組成は、発生から 2 年経過後も、漁獲サイズである 30 mm に達しない個体が殆どを占め、2013 年級の同時期と比べ、成長が遅れていた (図 1)。
- (4) 大量減耗と低品質の 1 要因として、2013 年、2017 年級のアサリ高密度分布が挙げられた。2007 年の移植調査で、身入りと成長への効果がみられた漁場がある。生息条件の良い漁場 (川口前南、萱崎) への移植で (図 2)、資源維持と品質向上が可能と考えられた。

2 期待される効果

- (1) 資源の動向と現状を提示することで、漁業者間でアサリ資源の認識が共通化できる。
- (2) 資源状態の良好なアサリ資源を有効利用することで、本格操業につなげることができる。

3 適用範囲

- (1) 松川浦のアサリ漁業従事者、水産関係行政・研究機関

4 普及上の留意点

- (1) 提案の際には、品質と併せて価格の向上も図れることを関係者に周知する。
- (2) 資源を持続的に利用するため、アサリ資源水準を継続して調査する必要がある。

II 具体的データ等

表 1 松川浦内の推定資源量

推定年次	2017年		2019年	
	2013年級 (トン)	2013年級 (トン)	2017年級 (トン)	合計 (トン)
川口前	287	106	81	186
川口前南	26	0	9	9
その他16漁場	629	414	83	497
合計	942	520	172	692

表 2 震災前後での肥満度の比較

調査年次	2017年6月			2010年6月		
	分布密度 (個/m ²)	殻長 (mm)	肥満度 指数	密度 (個/m ²)	殻長 (mm)	肥満度 指数
川口前	854	41	10	167	41	15
地島南	612	34	9	71	38	15
揚汐	437	38	10	8	38	14
十二本松	707	31	8	-	38	21
和田	1	43	9	189	32	13

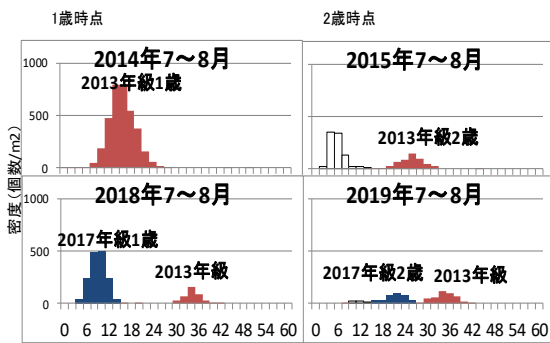


図-1 殻長組成の推移 (地島南)

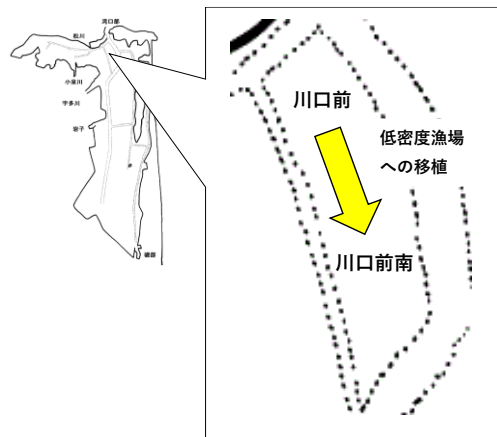


図-2 低密度漁場への移植 (川口前南)

III その他

1 執筆者

佐藤利幸

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28～令和2年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 松川浦におけるアサリの漁場別密度と資源量, 平成29年度普及に移しうる成果
- (2) 松川浦における2017年級アサリの分布密度, 平成30年度普及に移しうる成果
- (3) 漁場間移植によるアサリの有効利用, 平成19年度参考となる成果